

9月は、「いじめ防止啓発月間」です
児童会が動いています

9月は、いじめ防止啓発月間です。一人一人が、人権について考えています。

9月22日（水）の朝の時間には、前回の学校だより「いなほ」でお伝えしました児童会によるいじめ防止をテーマにした劇『いじめのない楽しい平荘小学校に』を全校生で視聴しました。



視聴後には、それぞれのクラスで、いじめ防止について、意見交流をしました。



児童会自作劇『いじめのない楽しい平荘小学校に』シナリオ（一部抜粋）

コロナに感染した後、学校に登校してきたしげる（仮名）へのいじめを設定した劇です。

- Aさん・Bさんは、しげるがコロナにかかったことをきっかけに、バイキン扱いをして「近づかん」と話しました。
- それを聞いたCさん・Dさんが、バイキン扱いはいけないことだとはわかっていましたが、注意すると自分たちも何かを言われるかもしれないから知らんぷりをすることにしました。
- Aさん・Bさんは、しげる（仮名）のことを「バイキン」と言い、Cさん・Dさんは、見て見ぬふりをしました。
- それを見たEさんが、Aさん・Bさんのしていること、Cさん・Dさんのしていることに対して注意をしました。
- Aさん・Bさんは、「ごめんなさい。もう絶対にしない。」と言いました。
- Cさん・Dさんは、「知らんぷりはしても、直接悪口を言っているわけではないから…。」と言いました。
- ☞いじめは、犯罪行為あるいはハラスメント行為だよ！いじめられた子は、トラウマになったり、引きこもりになったり、命を絶ってしまう可能性だってあるんだよ！
- ☞見て見ぬ振りも立派ないじめだよ！
「やめよ！」の一言だけでも言えればいいんだ。それを言う勇気がないのなら、誰か大人の人に言えばきっと助けてくれる。
- ☞「いじめっ子にも何かいじめをしてしまう原因があったのかもしれない」と考えることも必要かもしれない。

〈児童会より〉

みなさん、ぼくたちが伝えたいことをわかってもらえましたか。いじめをしたら、いじめられた子はどんな気持ちになるのでしょうか。

犯罪行為、ハラスメント行為だからしないんじゃないじゃなくて、傷つく子を一人でも減らし、みんなが楽しく通える学校にするためにいじめをなくしましょう。

悪口などのいじめは、まわりに見えにくい場合があります。だから、友達の様子が変だと思ったら、「どうしたん？」「だいじょうぶ？」と聞いてあげましょう。

暴力やことばのいじめもありますが、無視することもいじめになります。

加古川市のいじめ防止啓発月間のスローガンを、みんなでもう一度確認してみましょう。

『決めただ 見て見ぬふりは もうしない』

子ども達には、4月より『自分がされて嫌なことは、人にはしない。自分がされてうれしいことを、人にする。』という話をしてきました。児童会の制作した劇の中にも、「いじめられた子は、どんな気持ちになるでしょう。」というセリフがありました。「悪口を言われた」「暴力を振るわれた」「無視をされた」等々、辛い思いをした人の心の傷はなかなか癒えるものではありません。いじめた人が、「ごめんなさい」と謝ったからといって、辛い思いをした人の心の傷が消えるわけではないのです。私たちは、日頃から、相手の立場になって考えたり、行動したりすることが大切です。一人一人が、大切な命をもっているのです。子ども達には、9月の「いじめ防止啓発月間」を、自分の行為を振り返るきっかけにし、よりよい人間関係を築いてほしいと思います。誰かに怒られる（注意される）からいじめをしないのではないのです。いじめをしてはいけないという法律があるからいじめをしないのではないのです。人として、互いに人権を尊重しながら、気持ちよく過ごしていくことが大切です。平荘っ子のよいところは、誰かが困っていると、声をかけたり、周りの大人に知らせたりできるところです。やさしい人でいっぱいです。1学期よりも2学期、2学期よりも3学期と、人を大切にするやさしさの輪がどんどん広がっていくように、みんなで頑張りましょう。

